

教員名

教養・医学教育大講座 哲学
准教授 竹山 重光

I 授業の目的

「信頼」(trust, Vertrauen)ならびに「責任」(responsibility, Verantwortung)という二つの概念を、歴史的連関も含めて分析し考察する。これら二つの概念が医学医療をめぐって頻繁に語られ、問題化していることは周知であろう。実は、これらは20世紀になってあらためて問題化した現代的な思想問題でもある。そうした連関も可能なかぎり紹介して、分析し検討する。

II 到達目標

1. 医学医療をめぐって信頼と責任とがもつ重要性ならびに問題性を説明できる。
2. 信頼という概念の構造を理解し説明できる。
3. 信頼という概念が人間にとってもつ重要性を理解できる。
4. 責任という概念の古典的意味と現代的意味とを区別とともに理解し説明できる。
5. 責任という概念をめぐる現代的議論を理解できる。

III 教育内容

この講義は、たとえば放送大学などでなされているような、ほぼ完全に一方通行のやり方で行なわれるのではない。倫理学や哲学という学問分野は、そういうやり方が最もなじまない分野の一つである。この講義は事項伝達をするのではない。思考を展開する試みである。

私は授業時間中に君たちにしばしば質問する。いわゆるコメント・ペーパーを書かせることもある。講述内容の大きな区切りにおいて、中間試験的なものを行うこともある。そして、それらの結果や君たちの反応を鑑みて、講述内容を取捨選択したり、講述順序を変更したり、講述の濃淡を変化させたりする。現在なされている最新の議論を紹介することもある。

したがって、いついつの授業ではこれこれの内容を取り扱うなどという具合に呈示することは、この講義については不適切であり、無理やりそうして、そのとおりにするとしたら、むしろ不誠実である。倫理学や哲学の場合、そういうやり方にそもそもたいした意味はないゆえ、以下に掲げる表はきわめておどろきな目安でしかない。変更はありうる。

講 義 日 程 表

| No. | 月日 | 曜日 | 時限 | 項 目 | 担当教室 | 担当 |
|-----|---------|-----|----|--------------------|--------|----|
| 1 | R7.4.14 | (月) | 2 | 共同存在と信頼など | 哲学・倫理学 | 竹山 |
| 2 | R7.4.21 | (月) | 2 | 共同存在と信頼など | 哲学・倫理学 | 竹山 |
| 3 | R7.4.28 | (月) | 2 | 信頼現象の構造解明など | 哲学・倫理学 | 竹山 |
| 4 | R7.5.12 | (月) | 2 | 信頼現象の構造解明など | 哲学・倫理学 | 竹山 |
| 5 | R7.5.19 | (月) | 2 | 信頼の危うさ、他者による行為選択など | 哲学・倫理学 | 竹山 |
| 6 | R7.5.26 | (月) | 2 | 信頼の危うさ、他者による行為選択など | 哲学・倫理学 | 竹山 |
| 7 | R7.6.2 | (月) | 2 | 賭けとしての、勇気としての信頼など | 哲学・倫理学 | 竹山 |

